

1. 第1回 山陽学園大学 地域マネジメントコンテスト 入賞

7月20日(土)に山陽学園大学で開催された「第1回 山陽学園大学 地域マネジメントコンテスト」に金光学園高校2年高田愛珠と古江唯華が参加し、白石踊と笠岡の活性化について発表を行いました。「観光まちづくり」などの重点部門とその他のテーマの一般部門のうちで、私たちは重点部門に応募しました。私たちは白石踊を県外、さらには国外に発信するため、岡山に来ている留学生の力を借りることを思いつきました。留学生に白石踊の講習会に参加してもらい、その様子をSNSなどで拡散してもらうのが狙いです。

初めてのコンテスト参加だったのでとても緊張しましたが、練習を思い出し、落ち着いて発表することができました。その結果、出場した重点部門において「岡山商工会議所会頭賞」を受賞することができました。今後も地元の方々のお力を借りながら、笠岡の地域活性化を考えていきたいです。

(文章：高田愛珠&古江唯華)



2. 福知山公立大学 2019 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」入賞

令和元年7月20日、京都府の福知山公立大学で開催された「田舎力甲子園」の表彰式に金光学園高校3年渡辺陽と岡本涼頭の二人は出席しました。

ニッポン全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という社会的問題に直面していますが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎」の持つ内発的発展力に注目し、全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集したコンテストが、「田舎力甲子園」です。

白石踊の魅力の説明、私たち高校生の伝統を継承する取り組み、白石踊をテーマにした観光プランの論文を作成し応募した結果、奨励賞を受賞することができました。表彰式では他県の高校の入賞作品のプレゼンテーションも聞くことができました。最優秀賞を受賞した学校の活動は、高校生が主体となり地元食材を使ったカフェを開いてSNSで発信したそうです。他校の高校生から刺激を受けて私たちも地元の魅力を伝えてゆきたいと思いました。

(文章：岡本涼頭)



3. 高校生ボランティア・アワード出場と特別賞受賞

令和元年7月29日～30日に神奈川県横浜市にあるパシフィコ横浜ホールで開催されたボランティア・アワードに参加してきました。定期練習会に参加している金光学園高校、岡山龍谷高校、鹿島朝日高校の生徒が「白石踊800年の伝統を受け継ぐ」をテーマに高校生が白石踊を習って若者世代に広める活動をしていることを紹介しようと応募したものです。応募後にも続々と高校生の定期練習会参加者が増え、今では7つの高校から19人が活動しています。今回、金光学園高校、倉敷古城池高校、総社高校の高校生 計5名で横浜まで行ってきました。

ボランティア・アワードとは、公益財団法人風に立つライオン基金を設立し理事でもある、さだまさしさんが、高校生が行っているボランティア活動を発表する場を設け、内閣府やNHK厚生文化事業団等の後援を得てボランティア活動の全国規模の交流会にしたものです。全国の高校生が日頃から続けている“ささやかで偉大な活動”を応援するプロジェクトです。活動の規模や内容の優劣を競い合う“大会”ではなく、学校や活動分野の垣根を越えて自由で活発な交流を行い、互いの活動に対する理解を深め、連携し助け合い、切磋琢磨することを目的としている会です。

第4回目の今年は、事前のポスター審査を経た、全国から96の多岐にわたる活動団体(高校)が参加しました。大きな展示会場に設けられたブースごとに来場者に説明しました。



この2日間で高校生や先生方、一般来場者等多くの方が私たちのブースに来て発表を聞いて白石踊について関心を持ってくださいました。笠岡諸島を紹介したパンフレット200部もすべて配布しました。来場者が笠岡諸島を訪

れてくださるきっかけになればと思います。他校の生徒と相互に意見交換もでき、有意義な時間となりました。また、実際にブースで白石踊の13種類のうち“ぶらぶら踊り”と“娘踊り”の二種類を披露し聴衆の方に理解を深めていただきました。

2日目はシンポジウムもあり「命の大切さ」をテーマに有識者の皆さんと生徒による質疑応答がありました。有識者の皆さんの活動経験に基づく命の大切さの意見や私たち高校生が今できることへのアドバイスを聞きこれから実践しようと思いました。

ボランティア・アワードを通して、私たちの活動は多くの方々から支えていただいているのだと再認識しました。また、他の異なる活動を行っている高校生の発表を聞いて新しい視点やアイデアを持つことができました。

【マイナビ賞 受賞】

なんと今回、特別賞として株式会社マイナビさんからマイナビ賞を授与いただきました。今後も多くの方々に白石踊の魅力を伝え、若者世代に白石踊に参加してもらえるように一同頑張っていきたいと思います。

(文章：吉實沙希)